

## 鳥獣害対策チームが結成されました

果樹試験場では、今年度から研究員5名からなる鳥獣害対策チームを結成し、深刻な農作物の鳥獣害防止に関する研究を始めました。各地の情報を集積して検討するなかで、鳥獣害対策には、地域住民の団結と取り組みが重要であることが分かってきましたので、それらの支援を行なっていくための試験研究も進めています。モデル事例として、那智勝浦町の色川地区において、地域住民を主体に勉強会、被害実態の調査と被害防止対策の検討を行っています。集落点検結果から地図を作成すると、サル被害を受けやすい条件（問題点）が明らかとなってきましたので、取り組んでいく対策について皆で話し合いました。

今後も情報収集に努めつつ、関係機関と連携しながら農作物の鳥獣害を防ぐ研究に取り組んでいきます。



## 地元大学生を招き新品種試食会を開催しました

平成21年7月17日にかき・もも研究所にて、近畿大学生物理工学部の生物工学科の先生、学生（40名）の協力を得てモモ新品種の試食会を開催しました。

今回試食していただいたのは、「つきあかり」（独）農研機構果樹研究所育成）という黄肉系品種です。モモは白肉の品種が主力ですが、最近「黄金桃」等の黄肉系の桃の人気も高まっています。「つきあかり」は既存の黄肉系品種の中では早生系で7月中旬に収穫可能で、これまでの調査結果から糖度が高く食味は良好です。同時期の「清水白桃」と併せて試食してもらい、普段は食べ慣れない黄肉系のモモの評判は上々で20代の方の貴重な意見を聞くことができました。また、9月にはカキ「中谷早生」の樹上脱渋処理果実の食味調査でも学生・先生方からご意見をいただきました。先生方には日頃から専門分野でお世話になることも多く、今後とも地元大学の皆さんの協力を得ながら研究を進めたいと考えています。

